

自立活動（肢体不自由教育）

平成28年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問題1～問題6 全6問）

時間 9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて2ページです。
試験中に印刷不鮮明、落丁等に気づいた場合には手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問題別に6枚あります。ホチキスの針は、はずさないでください。
別に下書き用紙が1枚あります。
全ての用紙に、
 - ① 種目欄
受験する種目の口欄に✓を記入してください。
 - ② 受験番号欄
受験番号を記入してください。
 - ③ 氏名欄
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問題と同じ番号の解答用紙に記入してください。
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。
筆記用具は、黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、解答を直ちにやめ、解答用紙と下書き用紙が回収されるまで、着席したまま待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題1 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第36号）第7章 自立活動」では、自立活動の内容として6区分26項目が示されている。『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』（平成21年6月）では、自立活動の指導において具体的な指導内容を設定するまでの手続の例が示されている。そのうち「障害が重度で重複している児童の例」を踏まえて、自立活動の指導計画の作成過程について述べなさい。

問題2 国際生活機能分類（ICF）とはどのようなものか簡潔に説明しなさい。また、脳性まひでよく見られる「心身機能・身体構造」及び「活動」上の問題点について、事例に基づいて具体的に述べなさい。

問題3 胃瘻^{ろう}栄養法について、その適応について述べ、さらに学校で行う場合の手順や留意点について述べなさい。

問題4 痙直型^{けい}脳性まひ児の車いすの姿勢では、骨盤が後傾し、円背で、仙骨部に体重を負荷している様子がしばしば見られる。このような姿勢は、脊柱や下肢の変形・拘縮を引き起こしやすく、車いすからの転倒の危険性がある。こうした姿勢になる要因として考えられることを五つ以上箇条書にしなさい。

問題5 次の二つの姿勢について、重度の脳性まひ児の健康・安全面及び認知学習面からそれぞれ長所と短所について述べなさい。

(1) 仰臥位^{きょうぶが}

(2) 腹臥位^{はらぶが}

問題6 小学校肢体不自由特別支援学級を卒業して、特別支援学校（肢体不自由）中学部に入学してきた男子。入学の際に小学校の担任が記載した資料には、以下のことが書かれている。

障害名：脳性まひ

本人の様子：

- ・ 普段は車いす。SRC ウォーカーで短い距離なら移動可能
- ・ 身体の変形や拘縮は、少しずつ進んできている（左肘，股関節）
- ・ 発音は不明瞭だが，2語文程度の会話ができる
- ・ ○△□の弁別ができる
- ・ 平仮名はほぼ読めるが，「き」と「さ」を読み間違える
- ・ 数唱は，100まで言える
- ・ 不在の教員の動向を気にする
- ・ 教材や食器具をわざと落としたりして，教員に注意されることを繰り返す
- ・ スタートの合図のピストルの音が怖く，運動会の練習や本番で校庭に行くことを嫌がる

この男子の実態を更に詳しく把握するためには，更にアセスメントを行う必要がある。行うべきアセスメントについて，次の三つの観点から述べなさい。

- (1) 感覚・知覚
- (2) 認知・コミュニケーション
- (3) 運動・動作